

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171100144		
法人名	社会福祉法人 久栄会		
事業所名	グループホーム いしなり		
所在地	神埼郡吉野ヶ里町石動3291番地1		
自己評価作成日	令和4年10月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和4年11月22日	外部評価確定日	令和5年1月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自然に囲まれた立地であり集落の真ん中の事業所で地域の方々との交流がしやすい状況です。自治会にも入っており年3回ほどの集会に参加、地域のクリーンデーも年2回参加しており利用者様との参加を行なっています。コロナ禍で地域との交流が途切れていますが、子供クラブや敬老会など、コロナ禍が落ち着いたらと毎年、事業所に声をかけて頂いています。近所を散歩しやすい環境で地域の方々とは会話する機会も多く季節の野菜を頂いたり子供クラブのお祭りとしての訪問は今でも続いています。利用者様に読書が好きな方々もおられ、近所の図書館への利用や喫茶店での余暇を過ごされるよう取り組みも行いやすい環境です。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>山合の静かな、田園広がる場所に存在し17年。理事長が地元出身であり、町内に何か貢献したいとの思いで、高齢者が安心して暮らせる場所として開設された。地域の交流を第一とし、管理者は職員と共に地域密着を意識し、住民との関わりを大切にしている。近所から野菜を頂く事もあり自然に交流が出来る。近くにスーパーがあり利用者とは買い物に出かけたり、読書の好きな方は図書館に行かれる等環境にも恵まれている。玄関には職員による季節の花が活けてあり訪問者を和ませてくれる。管理者は「利用者第一」「行動を制限しない」「スタッフは壁をつくらない」を大事にされている。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着サービスを踏まえた理念を作り、話し合いに基づき、管理者と職員はその理念を共有して朝礼時には説明しながら唱和している。揃って唱和を強調している。	理念は創立の際スタッフと話し合い作成し、現在も変更なく、事務所に掲示されている。会議の際には相手の事を考え唱和され、常に意識され守られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、自治会に加入し、区費を払っている。地域の総会、清掃活動に参加している。事業所のふれあい祭りにて地域交流の行事に参加して頂いている。コロナ禍にて敬老会、子供クラブ行事は自粛されているが相談は継続している。	自治会に加入し回覧板が回り地区の情報は得られている。年間行事は子供クラブ、老人会からの申し込みもあり事業所で話し合い計画されている。事業所で作ったおはぎを配布したり、利用者の手製のマスクを子供クラブへ配布されたり、地域との触れ合いは続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は、地域の方参加のふれあい祭りや防災訓練等でも地域の方々に触れ合い馴染みのある関係を持っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進委員会を開催し、運営実態、課題を話し合い、委員の方よりの意見を拝聴し業務改善へ取り組んでいる。	運営推進協議会は3事業所合同で2ヶ月に1回実施されている。コロナ禍の為メンバー揃った会議は出来てないが各事業所の代表が集まり、各事業所の近況報告、日頃の活動報告や質疑応答には説明され、出来る事から改善されている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政との交流を密にし、福祉サービスの問題などについて役場担当課、地域包括支援センターと連携相談、地域ケア会議をなし積極的なケアサービスの取り組みをなしている。ふれあい祭り、敬老会に、町長、議長、議員さんに参加して頂き、連携を密にしている。	利用者に生活保護の方もあり手続きや利用状況、空き情報の報告には出向いている。実習生の受け入れもある。困りごとの相談は役場に相談され行政との関わりも出ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関、利用者の各部屋には施錠はなく、職員による見守りを徹底し、帰宅願望には制止することなく、さりげなく、声かけし、外出時には同行する。年1回全体勉強会やカンファレンスにて課題にもあげている。	事業所や外部の研修に参加し、対策委員会を3か月に1回実施され職員は身体拘束の禁止や弊害を理解され、拘束の無いケアに努めている。玄関の施錠は無い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は、高齢者虐待法に基づいて、勉強会、カンファレンス、研修会で学ぶ機会を持ち、利用者の虐待が見逃されないように、注意を払い、虐待防止に努めている。入浴時にアザ等見つかればヒヤリハットを記載し改善、予防を共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員は希望により園外研修会に参加し、成年後見制度、日常生活支援事業について学び、家族、関係者と話し合いを持ち、それらを活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は入居時に、利用契約書・重要事項説明書について行っている。疑問点、不安を含めて理解、納得を得て、押印して頂いている。後日質問等があれば丁寧に説明している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や行事で気楽に何でも話せる環境を作っている。玄関には意見箱を設置している。話しやすい雰囲気を常に作り、意見や要望はカンファレンスや毎日のミニカンファレンスの際に話し合い、反映している。	玄関に意見箱を設置しているが利用はない。コロナ禍の為面会は感染対策しながら玄関に仕切りを設け行われ、その際に家族の意見、要望を聞く事が出来、電話での交換も出来ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見の言いやすい雰囲気作りに努め、月一回のカンファレンスの際に行事等の事案討議、反省会を行なっている。年に二回の人事考課を実施し、職員の意見を聞き改善に努め、反映している。	法人内での異動はある。職員同志のコミュニケーションは良く、何でも話し易い雰囲気である。職員の希望休日は3回まで等課題もあり、管理者は職員の意見をまとめて理事長に相談され、働き易くなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務や状況に合わせた外部研修の推進。人事考課時の職員の気持ちや意見を反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部・内部研修を行なっている。職場におけるトレーニングを通して個人の能力を見極め、行事等の取り組みを任せている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今回はコロナ禍のため研修はオンラインにてグループワーク等に参加しているが今年はまだ該当者なし。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で本人様やご家族様より要望や不安なことを傾聴し、職員、介護支援専門員で支援を考察し、家庭的な雰囲気や安心して頂ける関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所される前に本人様、ご家族様、介護支援専門員、管理者で話し合いの場を持ち、施設の方針や理念を説明する。入所される前に見学して頂き支援方法の説明を行なう。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、ご家族様、介護支援専門員、管理者が話し合いを持ち、必要としている支援を見極め全職員で支援を共有しサービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様により日常生活の中において料理や色んな知識等を教えて頂くこともあり、一緒に清掃や料理作り、行事、レクリエーションを行ない役割を感じて頂く。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	盆、正月など帰省時に介助の必要な方でも気楽に帰省できるようにしている。本人が希望すれば喫茶店、図書館等の外出支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	例年であれば家族様との外出や外泊の支援を実施しているが、新型コロナの感染拡大に伴い支援が難しくなっている。しかし、地域の買い物には人出が少ない時に参加して頂けるように支援している。デイサービスでの催しにも密にならないくらいの人数で参加したり、敬老会への参加の支援を行い、人と場所との関係が途切れないようにしている。	これまでには面会は多かった。現在コロナ禍の為制限はあるが感染対策をしながら玄関に仕切りを作り、家族と面会を楽しんでいる。利用者から電話の取次ぎの依頼もあり、その都度対応されている。町内の住民として文化祭には利用者の作品を出展され励みになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人お一人の性格や人となりの把握に努め、食事の際や余暇時間に座って頂く位置を考慮しながら穏やかに過ごして頂けるような環境を作っている。家事の支援を行なう際やレクリエーションの際には密にならない程度に会話を楽しまれるような位置関係に留意しながらお互いが支えあえるような関係を支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者様が退所された後にも『近くに来たから』とご家族様が気軽に立ち寄って下さったり、退所されたご利用者様の写真等が出てきた際には連絡させて頂いたりと良好な関係を築かせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	新型コロナの流行拡大により、日常生活を送る中でのご家族様との自由な交流が難しくなっている。利用者様の希望や思いを全員で共有し、少しでも気分転換できるようなレクリエーション等に努めている。	担当制である。食事、風呂の時間に話す時間がある。思わぬ表情や動作、つぶやき等小さな行動にも気を配り記録に残し、職員で共有し利用者様の思いに寄り添いケアプランに活かされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様との会話を通して過去の生活歴の把握に努めている。これまで使われてきたサービス利用の経緯や入院された際の経緯を利用者本人様との会話を通して情報を得られるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様おひとりおひとりの気持ちに寄り添い、想いや心身の状況を毎日の申し送りで共有し、異変があれば随時、ケース記録、ミニカンファレンス、カンファレンスの機会を作り情報の共有と現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様やご家族の希望や意見を伺う機会を持ち、そこで得られた情報をカンファレンスで話し合い、情報の共有と担当者の意見を取り入れながら現状に即した介護計画を作成している。	担当者が利用者の日頃の様子や家族の意見、要望を取りまとめカンファレンスで話し合い、利用者の思いに沿ったプランを作成している。基本6ヶ月毎に見直しをされているが、状態変化時はプランを見直しを家族に説明し、承諾を受けている。家族には電話や行事の写真と共にラインの交換もある。職員が理解出来るように細かな記録がされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきはケース記録やケアプランの気づきに記入し、介護計画書により毎日のモニタリングの作成を行いカンファレンスで見直しや意見を取り入れ反映することで情報の共有を図り介護計画書の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のその時々の変化に臨機応変に対応できるように情報の共有を行い、職員全員が対応できるように努め取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本年度はコロナ禍にて行事中止は多いが自治会には入っているのでクリーンデイや防災訓練の合同参加、図書館や喫茶店の利用も行っており、地域の一員としての役割を担って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調の状態を見て必要時には事業所、家族様に報告し主治医と連携しつつ適切な医療を受けられるよう援助している。	入所時に利用者と家族に説明し、希望に沿っている。かかりつけ医が町内である場合は職員が送迎し、利用者は病院で家族と待ち合わせをしている。町外は家族の協力である。現在2名に往診されている。看護師は相談を受けたり、誤薬等ないように説明されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝バイタルチェックを行ない変化があるときや、関わりの中での疑問や気づきを看護師に報告 相談しケアを行なっている。月一回の勉強会や日々のケアについてノートを作り情報共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に適切な情報を提供し、また病院からの情報も家族様に正確な提供を行なっている。可能な限り希望に沿うように病院と事業所、家族様との連携を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と施設長、管理者、家族様と話し合いを行ない同意書を取りケアを行なっている。本人様が安楽に過ごすことができるよう、またご家族様の相談や心理的ケアを行いつつ事業所全体がチームとなり支援を行なっている。	重度化や終末期の対応について入所時に説明し了解を得ている。看取りの経験はある。看取りの研修は講師を招いて行われている。施設で看取りを希望された利用者については、その都度意向を確認しながら最期までの支援が行われている。エンゼルケアを行い管理者は弔電で見送られ家族から感謝されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は月一回の勉強会やカンファレンス時に、急変時の対応を情報共有している。必要物品はすぐ使用できる状態であるよう管理保管している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。訓練を実施する際には数人の地域住民の方々に参加して頂き、万一の事態に備え避難介助や見守り等に協力して頂けるような協力体制を築いている。消火訓練、車椅子を使用した避難訓練も行なっている。	年2回消防署立会いで昼夜想定訓練を利用者、地域の方の参加で行われている。車椅子使用方法の説明、体験を行ってもらい地域の方は見守りの分担である。居室の入口には避難確認のボタンが取り付けられている。避難場所は家族にも周知されている。町内の避難所、ハザードマップも事務所に掲示されている。備蓄や寝具の準備もされている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人様の個性に応じた支援を行う。排泄介助の際はプライバシーに配慮した介助に心掛ける。園便りや研修資料への使用の可否は、入所時に同意書を得て本人様の尊厳を尊重している。言葉かけや対応も虐待の勉強にて対応している	接遇の研修を外部、事業所で行われている。言葉遣いは大声や声のトーン等に気を配っている。佐賀弁も用途、必要に応じて使用し分かり易く、理解も速い。耳の遠い方もあり耳の傍での会話や筆跡も行われ、その人に合った対応をされている。職員の気になる行動、言葉遣いにはその都度管理者は指導されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の要求や希望を取り入れた支援を考慮している。職員は和やかな雰囲気作りに努め、利用者様とのコミュニケーションを図り思いをくみ取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりの思いを尊重した対応に心掛け、何をしたいのか希望を各々聞いている。他にも日常生活に楽しみを持っていただくため、外食や行事参加を促しより多くの利用者様の笑顔を引き出す事の出来るよう支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回の美容師の訪問にて散髪の実施をしている。着衣も選んでいただき一人ひとりの個性を大事にしている。女性は爪(ネイルケア)にも配慮している。また、化粧ができる利用者様には外出時・行事時に口紅をさして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の能力を引き出す目的で、食事の準備や後片付け等を職員と共に行っている。特に女性の御利用者様は昔を思い出されるようで楽しく生きがいに繋がっている。	主菜のみを取り寄せ、ごはん、吸い物、副菜は作られている。日曜日は利用者と共に全て作られる。食材の買い物は利用者、職員でされている。おやつ作りもされる。利用者は美味しい肉、魚、ラーメンを食べたい等希望があり対応されている。1人は検食し職員は利用者のテーブルに付き話をしながら楽しい食事の時間である。食の細かい方によれば食欲が出るか話し合い結果を出されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の記録は全職員が把握し徹底している。調理法、栄養バランスは業者と相談し十分に配慮している。食物繊維の摂取を通して便秘解消に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様一人ひとりに応じた口腔ケアを行っています。義歯の洗浄支援も行っている。上手く行うことの出来ない利用者様には残渣物がないよう確認を行なっている。週一での医師による口腔ケアも実施し指導いただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表に基づき、定時のトイレ誘導を行っている。また失禁やパットの減少に努めている。失敗が少ない利用者には布パンツの使用を促している。	排泄パターンや利用者のタイミングに合わせて誘導されている。夜間のポータブル使用はない。自立に向けて歩く、動く等運動を実施されている。衣類の上げ下げ等介助しながら支援されている。家族からは自立の姿に顔が明るくなった、元気になったと喜ばれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や、乳製品を取り入れ、その人に適した食事形態(ソフト食)を取り入れている。水分は必ず取るようにしなるべく薬に頼らないよう努めている。また水分の種類を変えながら嗜好を考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週に二回は入浴して頂ける体制になっているが、希望があれば入浴して頂けるように支援している。排泄の失敗などあれば都度入浴を実施している。	基本週2回としているが希望があれば対応される。リフト浴で利用者も職員も安全である。入浴中手や足のマッサージで気持ち良く歌が出たり、会話が弾み楽しい時間である。濁りのある入浴剤は浴槽の中が見えなくなる為危険を感じ中止されている。男性が先に入る習慣がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中の日光浴、日中のレクリエーション等、お一人お一人に合ったリハビリメニューを支援したり、散歩や適度な運動に取り組んで頂き夜に熟睡できるように支援している。寝る前のホットミルク提供者も現在2名おられます		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様お一人お一人の服用役の内容把握に努め、朝、昼、夕に間違いなく服用されるように色分けし、さらに複数の職員によるダブルチェックを行なうことで誤薬防止を図っている。体調に変化がみられる際には管理者に報告し医療職との連携がスムーズに図れるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様毎の残存能力を活用できるような作業の選択、積極的に取り組んで頂けるように興味を持たれるものを取り入れて喜んで頂いている。希望される方には書店や喫茶店を利用して頂いたり、買い物やドライブ、歌、ゲーム等で気分転換を図れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナ禍で他事業所との交流では人数を絞りながらではあるが参加できるよう支援したり、日常の買い物やお花見ドライブ、公園でおやつを召し上がって頂いたり喫茶店や図書館を利用して頂けるように外出支援を行なっている。	コロナ禍であるが状況や利用者の体調を見ながら買い物やドライブで季節を感じてもらっている。喫茶店や図書館等へも利用者の好みに合わせ外出支援されている。町内の文化祭に理事長がカラオケに出場される為利用者は「うちわ」を手作りし応援に行く事を楽しみにされている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人的にお金を所持すると安心される方や、物欲のある方には支払いや欲しいものを聞いたりしている。利用者の能力に応じて本人が買い物できるように職員が側で支援している。領収書はコピーして保管している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望に関しては本人の希望や家族の了解を得て双方の希望に添えるように対応。手紙、年賀状は利用者の能力に応じて、作成、代筆を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には転倒防止の為に手すりを設け、清潔保持の為に毎日清掃を利用者と実施、炊事場、リビング、風呂場等の清潔を保つ為の清掃をチェックしている。玄関や廊下は季節の花を活け季節感を味わっている。	リビングは大きなガラス窓で季節の移り変わりが楽しめる。室内は次亜塩素酸性で空気の除菌がされている。ソファやぬいぐるみもあり、ゆっくり出来る。食後マスクを付けてテレビを見たり、テーブルでは食材の下準備をされ好きな事、出来る事をされている。台所から美味しい匂いが感じられる。日差しの強い夏は朝顔、ゴーヤを植え日除けになり、冬場はイルミネーションで楽しめる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごして頂く利用者の輪に職員も参加し利用者に快適に過ごして頂くと共に体調変化にも配慮する。面会の時にはコロナ禍の状況の必要に応じて車庫に椅子を準備し間仕切り実施又は居室で面会をしてもらっている。居室は自由に行き来できる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持ち込みは契約時に愛着を持たれていた品物を促し自由に飾られたり居心地良く過ごせるよう配慮している。担当スタッフが居室管理しているので装飾も行っている。	居室入口には利用者好みに合わせた名札が掛けられている。また避難確認ランプも取り付けられている。持ち込みは自由であるが多くの持ち込みは無い。ソファやぬいぐるみ、写真、誕生日に送られた色紙、整理タンス等がある。居室は利用者の思いに沿って担当者や相談しながらレイアウトされ過ごし易く、整理整頓されている。掃除は職員でされる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室等の表記や手すりを設け安全に移動出来るように配慮している。居室までも手すりがある為 行き来が安全に自由に出来る様に工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない